令和5年度 市民と市長の対話集会

市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

１　開催日時　令和６年（２０２４年）２月１３日（火）

午後２時から４時まで

２　開催場所　市役所５１９会議室

３　参加者　　市内農業従事者７人

４　テーマ　　次世代につなぐ持続可能な農業について

５　市長あいさつ

本日はお忙しい中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」のために市役所まで足を運んでいただきありがとうございます。

平成２３年の市長就任以来、市民の皆様のお話を聞いて政策に反映するため、このような機会を作ってきました。

今回は、農業に従事されている方にお話を聞く機会を設けさせていただきました。３年前に若手の農業従事者にお話をお伺いした時は、新規就農者の家賃への補助についての御意見をいただき、早速その翌年に家賃補助の制度を作りました。

御存知のとおり農業基本法も今年改正になるということで、日本が抱えている農業の問題や農業の大切さ、また食の安全保障も含む安心・安全な対応は大変重要な課題になります。

今回「次世代につなぐ持続可能な農業について」をテーマに、今皆様が感じている課題や、農業に魅力づけをするための御提案も含めて、お話をお聞かせいただきたいと思っています。

平塚は県内一の米どころです。畑地を利用した耕作、露地野菜、施設野菜、畜産など、多様な農業が営まれています。皆様がそれぞれ従事されている農業について、課題をお示しいただければありがたいと思います。私も田村地区の農家出身で、幼い頃から手伝いをしてきました。今になって農業の大切さや課題を改めて感じています。

農業の課題としては、農業従事者の高齢化と減少、後継者の不足、耕作放棄地の発生、鳥獣被害の発生など、様々なものがあると思います。これらの課題解決に向けて、スマート農業の導入、担い手の確保に向けた支援等をしっかりと行いながら、平塚の農業を持続可能なものにするために、皆様のお話を伺っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

６　主なミーティング内容

【司　会】

本日は「次世代につなぐ持続可能な農業について」をテーマに市内で営農している皆様にお集まりいただきました。担い手の確保育成、そして持続可能な農業について意見交換ができたらと思っております。

まず、参加している皆様に、自己紹介をしていただきたいと思います。お名前や主に栽培されている作物、どのくらい農業に携わっているかなどをお伺いいたします。

【参加者】

平塚の城島で施設野菜、ハウスできゅうりを作っています。きゅうり栽培では負けないという意気込みで長年農業をやってきました。経歴としては、高校、大学で

農業関係に進んで、その後、種苗会社に勤務し、２５歳の頃から農業に従事しています。

【参加者】
　岡崎のグリーンファームという法人で養豚を営んでいます。常時、１，５００頭以上の豚がおり、全農の「やまゆりポーク」というブランドで出荷をしています。

【参加者】
　私は新規就農５年目で露地野菜を主に作っています。幻のくりまさりをメインに３０品目の野菜を作っています。実家が農家で完全な新規就農とは違いますが、平塚市で営農したということもあり、平塚の農業がもっといろいろな方に知ってもらえるような活動をしていきたいと思っています。

【参加者】
　豊田平等寺で施設野菜を作っています。作物はトマトのみで面積は３０アールほどです。平塚農業高校、日大、神奈川県農業アカデミー卒業後に神奈川県農業技術センターで２年ほど研究助手として働いていました。就農してから今年で１０年ぐらいになります。

【参加者】
　今日は親子で参加しています。私の代で施設園芸を始めました。その前に父は露地野菜と水稲を栽培していました。研修先がトマト農家だったことでトマトを始めました。私も高校を卒業し、神奈川県のアカデミーから二宮の試験場で１年間研修させていただき、現在に至っています。

【司　会】
　これから２つのテーマに沿って出席者の皆様から御意見・御提案等を伺いたいのですが、その前に皆様が農業に携わる中で、大切にしていることや思い、ここがうちの強みだといったアピールポイントをお伺いします。

【参加者】
　平塚は県下一の水稲の地域ということもあり、わら、もみ、米ぬかを畑の中に漉き込んだり、堆肥として活用したりということを実践しています。グリーンファームでいただいた豚糞も活用させていただきながら、土づくりをしています。皆がWin－Winの形で農業ができるようにという考えでやっています。

【参加者】
　農業は今年で１０年目に入ります。メインの作物はビーツという野菜で露地栽培をしています。

【参加者】
　今日は夫婦で参加しています。一緒に農業を始めて１０年目で、ビーツを３ヘクタール以上作っています。

【司　会】
　本来のテーマに入る前に皆様にいろいろとお伺いしたいと思います。先ほど、やまゆりポークというお話がありました。その話も後ほどお伺いさせていただくのですが、小学校で行われているふれあい給食による食育についてお話いただいてもよろしいでしょうか。

【参加者】
　やまゆりポークというブランドで様々なＰＲ活動をしていて、その中で食育も実施しています。市内の小学校にお伺いして、豚の育ち方など、様々な豚に関するお話をさせていただいています。やまゆりポークを使った給食により、豚のことを知っていただく活動を毎年実施しています。

【司　会】
　ありがとうございます。続きまして、他の生産者と違った工夫がありましたら教えていただけたらと思います。

【参加者】
　私が始めた頃のトマト栽培は、全て土耕栽培でした。私が営農している地区も市街地の中なので、土壌消毒や堆肥をまくことが困難になってきました。そのため、息子が就農したときに隔離ベッドというものに切り換えて、味を追求する栽培方法に移行しました。

【司　会】
　市街地の中で工夫して栽培されていることが分かりました。続いて御家族で営農されている中で、助かる部分や大変な部分等がありましたら、教えていただいてよろしいでしょうか。

【参加者】
　市街地の中で営農しているので消費者がすごく近い位置にいます。自宅で直売をやっているので、消費者といろいろなコミュニケーションがとれるところは、非常に強いと思っています。
　家族単位の営農では、誰かが病気になったり、今日のように外に出たりすると戦力が減るという部分が非常に大変だと思っています。

【司　会】

先日お話をお伺いさせていただいたときに、強みは収量であると伺っています。具体的に収量が強みというワードの説明をお願いします。また、県内の品評会においても様々な成績を収められているので、その辺りもお話しいただければと思います。

【参加者】
収量では県内で負けないぐらいの量を作っていると思います。ある程度の品質のものを多く収穫した方が収益は上がると思い、収量をメインに栽培しています。
品評会等は、自分の作ったものを審査してほしいと思って参加していて、農林水産大臣賞を個人で３回受賞しています。
平塚では担い手が簡単に見つかるのではと言われます。ただ、最低賃金が決まっているので、熟練の人と新人に同じ賃金で働いてもらうことへのジレンマがあります。農業は自分で価格を決められません。原価が上がっても簡単に値上げができないので、そこを考えていく必要があると思います。

【司　会】
農業で豊かな人生をモットーに、若い従業員の方々と楽しく元気に営農されているというお話をお聞きしたので、その点について伺ってもよろしいですか。

【参加者】
社員として、２０代ぐらいの方を４名雇用しています。都心から近いので募集をかけると応募はあります。若い人たちは農業に興味を持っていますが、理想と現実のギャップがどうしてもあります。高学歴の方が実際に作業をしてみて、思っていた仕事と違うことが当然あるようです。価値観も多様化していますし、経済的なリターンだけでなく、農業の副次的なリターンを求めて農業の世界に入る方もいます。そういう意味では、農業の担い手は、平塚という場所がら若干確保しやすいと思います。

【司　会】
女性の目から見たアピールポイントや、何か工夫していることがありましたら、お話を伺いたいと思います。

【参加者】
女性は私と若い従業員が１名いるだけです。うちは意思決定に力を入れていて、会議や意見交換をよく行います。女性の方が器用で袋詰めが早い場合があります。また、商品を入れるパッケージのデザインなどもしています。

【司　会】
次に、「担い手の確保や育成について」、というテーマを皆様に考えていただき

たいと思います。
【参加者】
　新規就農にあたり、平塚市では農地を見つけるのが難しいと思います。アカデミーに通っていたときに聞いた話では、空いている農地のマップが廊下に貼ってあり、新規就農者が分かりやすいような取組をされているということでした。
　横浜や川崎で研修をしたので、就農するときに農機具のレンタル事業があると思っていたのですが、平塚にはないことに衝撃を受けました。実際に５年やってみて、借りて営農するのではなく、買う覚悟を持って農業に取り組まなければいけないと実感しているところです。
　この５年間で、くりまさりをやると決めたのですが、それ以外の作物で何が自分に合っているのかを試行錯誤するときに、土地などを簡単に借りられれば良かったと思います。

【司　会】
　きゅうり栽培について学びたいという方を受け入れていると伺っています。担い手の話と併せて、若手育成に尽力している理由について、お話を伺えればと思います。

【参加者】
　担い手育成については、教えてほしいと希望する人に対して、自分が分かる範囲で教えるという考えでいます。
　若手育成については、平塚の営農ボランティアを利用してうちに来るようになった大学生が新規就農しました。施設栽培は建物がないとできませんが、新卒者が何千万もの借金をするのは難しいです。
　新規就農者の補助金は５年間支給されますが、農業が合わずにやめた場合は借金を背負うことになります。思ったより収益が上がらなくても働かなければならないので、覚悟が必要です。
　今は家族できゅうりを育てて、パートさんに収穫してもらう役割分担で仕事をしています。１００万円の壁のため、パートさんが働きにくいという苦労があります。

【司　会】
　今のお話に対し、皆様から御意見等あれば意見交換したいと思います。何か御意見はありますか。

【参加者】
　パートさんを３人雇っていますが、年末に１３０万円を超えて扶養から外れてしまうと相談されました。先日、事業者の証明書を会社に提出した場合は、２年間特例で扶養から外れないことを税理士さんから聞いたので、今対応しているところです。

また、施設野菜の初期投資について他県の事例を見ると、国や県の主導で、営農しなくなった施設を借り上げて、補修して新規就農者に安く提供するというニュースを見たことがあります。先輩方が営農できなくなったとき、ハウスをたたむのにもお金が相当かかるので、新規就農者に安くレンタルできるような仕組みがあれば、もう少し就農者が増えると感じています。

【司　会】
ありがとうございます。ほかに御意見のある方はいらっしゃいますか。

【参加者】
やる気がある方、農業が好きで一国一城の主になるために始められる方は頑張れるので、それ以外で長く働ける人をどうやって確保するのかが課題です。
人の入れ替わりが定期的にありますが、今のところ、入れ替わっても問題ないように工夫しています。普通の会社のように生産性や待遇を上げて、長く働ける会社としての仕組みづくりを日々考えています。

【司　会】
ありがとうございます。今皆様から御意見をいただきました。落合市長から何かありますでしょうか。

【市　長】
皆様には御尽力いただきお礼を申し上げます。うちにも温室があって花卉園芸をしていたので、よく状況が分かります。
機械化をしていなかったので、球根を植える土を運ぶのにも一輪車で何度も往復しました。今こうやって農業を支えていただいている皆様のやり方は、農業の価値を高めていく上で本当にありがたいと思っています。
農業が産業として成り立っていかないと、これから生き残っていけないと思います。そのために、国・県・市・農協がどのように農業を維持させ、つなげていくかが重要だと思います。
我々としては、国や県と連携しながら、基礎自治体としてどうやって皆様にお力添えができるのかを考えさせていただきたいと思っています。
また、配偶者の扶養に入る・入らないの問題についても、市長会で長年国などに要望しています。これから人口減少に伴い働き手が減る中で、特に女性が働き手として世の中を支えていく時代になると思います。税金の仕組みも変えなければ、ますます働き手が不足してしまうと思いますので、しっかりと要望していきたいと思っています。

【司　会】
実際に従業員を雇用して、農業を通じて人材育成も図られているというお話を伺

っています。一緒に働かれている方々が農業に対してどのような御意見をお持ちなのか、働かれている方々それぞれのお気持ちなどを教えていただきたいと思います。

【参加者】
　今は４人雇っています。独立を希望している人、自分でもマルシェをやってみたいという人、趣味でバンドをやっている人、自分のやりたいこともやって仕事も楽しくやるという人が働いています。

【司　会】
　ありがとうございます。プライベートと仕事をしっかり分けられていて、また、経営者という立場で、そういった従業員を育成しながら雇用している環境がとても優れていると感じました。何か職場の環境作りに気をつけていることや、こういう考え方で接しているなどがあれば、伺いたいと思います。

【参加者】
　私自身が農家出身ではなく、少し変わったことがやりたいという思いがあるので、うちのスタッフもおそらく普通の会社では雇わないのではと思われるくらいの個性があります。個性の強みがそれぞれ違うので、その強みを生かせるチームを作ることを目指しています。また、若い人たちが多く、全力で農業をやりたいという人たちがいません。農業を楽しく、ほかのことも楽しくというように、時々イベントを入れながら、ある程度自由に仕事をしてもらっています。
　今は作物を絞っている状態ですが、いろいろな作物を作っていた時期は、企画会議で栽培したいものを検討していました。

【参加者】
　夫婦でこれを作りたいというような会議はやります。例えば水耕栽培について、次はどうするのかなど、やってみたいことの案を従業員に出してもらい、取り組むことを決めています。

【参加者】
　私も生まれたときからきゅうりがある生活なので、ハウスできゅうりを作るのが当たり前だと考えているところがあります。おそらく、今の農業は農家任せになっているので、農家に育ったのだから、農家を継げという話があるのかもしれません。私も子どもがいますが、子どもが農業をやりたいと言わない限り、自分と同じように農業に従事することを勧めないと思います。

【参加者】
　祖父が豚の頭数を増やし始め、私が引き継いだ後も頭数を増やしていきました。今年で３０年目になります。２年前に豚舎を建てたため、かなりの負債を抱えてい

ます。
　この業界は、担い手育成の動きとは全く反対のところにいます。我々の業界に人は来ません。大きいところは外国人を雇うことが多いです。最近はウクライナの影響で、餌の値が大きく上がっています。とうもろこしや大麦などを輸入して作られた配合飼料を、全農からやまゆりポークの専用の餌として買っていますが、この餌代が売り上げに対して７割近くまで上昇しています。
　国はあまり動いてくれませんが、県と市から補助していただく形でどうにか生き残っている状況です。先を見通していつまでできるのかという状況になってきています。そういう状況で人を雇えるかというと、正直難しいです。全農が大学で農業の勉強をしている方を探してきますが、２、３年で辞めてしまい長続きしません。
　やまゆりポークも、２０年ほど前は１４農場ぐらいありました。１４農場の中で、苺農家になった人や辞めた人がいて、今は８農場になっています。さらに、今年の６月に１農場辞めてしまう状況です。新規参入と言っても、我々の業界で新規参入はほぼ無理ですね。

【司　会】
　ありがとうございます。後継者として続けていく中で、例えば事業拡大など、今後の展望を教えていただきたいと思います。

【参加者】
　経営規模の拡大を考えています。現状、土地が集めづらいことと施設への投資がネックになっています。人に関しては、環境整備をすれば来てくれます。うちはトマト専門なのですが、自分が就農した時期から比べると、価格の下落が起きています。直売などでは自分で納得する値段をつけて売っていますが、ほとんどは出荷になります。出荷になれば、自分で値を付けることはできません。近くの直売所やスーパーに卸す場合も激しい価格競争が始まっている雰囲気があります。作物にもよりますが、経営規模の拡大は難しいと考えています。
　今後を考えたときに、技術を上げるしかないところがあって、スマート農業を始め、経営規模拡大の前段階として、最新技術へのアップデートに投資をしている状況になります。

【司　会】
　ありがとうございます。技術を高めていくというお話がありました。今まで培ってきた技術や知識を今後どのようにして引き継いでいくのか、そういった考えがありましたら、教えてください。

【参加者】
　私が４０年前に就農したとき、ハウス農家に研修や視察に行かせていただいて、技術を盗めというように教わってきました。１０年ぐらい前、スマート農業が始ま

った当初に環境測定装置を導入しましたが、データを読み取る力がないと、昔のように勘でやる農業になってしまいます。
　栃木にあるトマトパークなどは、１０アール当たり７０トン、１００トンを目指すような技術ができています。それにはかなり投資が必要になるので、どこかの土地を国県レベルでまとめて周辺設備を整えれば、個々の農家の出資も少なくてすむと思います。
　息子が就農した時にハウスを直したり、３年前に新しく建てたりしました。結局、資材代や重油代が上がる一方で、売る物の価格が下がっている状況なので、個人でやっていくには、かなり厳しい時代になったと感じています。

【司　会】
　ありがとうございます。皆様から御意見をいただきましたので、落合市長からも御意見をいただければと思います。

【市　長】
　本当に皆様が御苦労されている現状や課題が分かりました。やはり施設園芸はどうしてもお金がかかります。先ほどハウスのお話もありましたが、うちは３年前に３棟壊してしまいました。誰かに使っていただけるよう考慮すればよかったと思っています。
　飼料の高騰など大変厳しい状況にある中で、家族経営で収益をあげて生活をしていく時代ではないように思います。県、市、農協がどのような形で営農を応援できるかについて考えていきたいと思っています。ここ２、３年がこれから農業を進めていくために大切な年だと感じています。

【司　会】
　続きまして、二つ目のテーマ、「持続可能な農業について」それぞれの立場から御意見、御提案をいただければと思います。農業を持続可能にしていくには、ブランド化は重要なキーワードだと思います。平塚、湘南という立地的な部分も含めてブランド化することについて、御意見を伺ってもよろしいでしょうか。

【参加者】
　やまゆりポーク自体は神奈川ブランドに入っていて、様々な機会を捉えてＰＲするようにしています。ＰＲできる場には積極的に行くようにして、名前を売ってきたことも、よい方に転じています。
　横浜の有名なホテルなどで使っていただくことで、やまゆりポーク自体のブランドとしての価値、知名度も上がっています。問題としては、生産者が減って供給が間に合わなくなってきたことです。更に広げようという形には、なっていきません。
　やまゆりポークは、横浜市場と厚木にある神奈川食肉というところの２ヶ所で屠畜されていて、他の豚と比べると高く売れている状況です。

うちは、厚木に出荷していて、かなり高く買い取っていただいています。肉屋さんからの要望に応えながら、ブランドのイメージや肉の質を上げていくように歩んできた結果、ブランドとしてもレベルが上がったと思います。

【司　会】
持続可能な農業について、時代とともに消費者のニーズも日々変わりつつあるということですが、何か工夫をしたり、時代の変化に即した動きをされているのか、また、今後の取組があれば、教えてください。

【参加者】
お客さんのニーズを捉えて、その時代に合わせた品種に変えたり、作り方を変えたりしています。うちは直売中心で販売しているので、お客さんの声は常に聞こえます。当然お客さん、市場関係者、業者といった取引があるところと、品種や値段、味など、かなり細かいところまで話し合いをすることもあります。ブランド化の話もそうですが、お客さんに認知してもらえるように考えています。
ほかに持続可能な部分で考えているのは、作り方です。うちは養液倍地耕で栽培しているのですが、ヤシ殻など使っている資材の供給が途絶えてしまった時が、非常に怖いというのはあります。基本的にヤシ殻はスリランカから輸入されているのですが、戦争などで影響を受ければ入手できなくなってしまうので、代替品の検討も始めています。
また、トマトを作っていると残さが発生するので、その残さをどこで処理していくか考えているところです。

【司　会】
ありがとうございます。同じく施設野菜のきゅうり栽培で営農されているお話を伺うと、継続的に大きな収益を上げ続けないと経営を持続していくのは難しいと素人ながらに思います。実際に、収益を上げ続けることに対して、工夫していることなどがあれば教えてください。

【参加者】
栽培している限り収益を上げるのは絶対条件だと思います。栽培することが好きだから勉強して、毎作５品種以上は登録されていないものを作ります。その中で良いものがあれば、いち早く自分のところで導入していきます。
きゅうりの味の差は何かというと、食べ比べないと分からないぐらいの差しかありません。なぜおいしいのと聞かれますが、絶対に鮮度だと思うので、鮮度にはこだわっていきたいと思っています。
また、持続可能な農家で考えると、必ず意見が割れるため、親子関係が一番難しいと思います。続けるためには、自分の仕事を成果として捉えてくれる環境づくりが大切です。

【司　会】
　ありがとうございます。今のお話を伺いまして、落合市長から何か御意見がございますか。

【市　長】
　最後の言葉は本当にその通りだと思います。実際に農業に従事して御苦労いただいていることは、本当にありがたいことだと思います。私は農家出身なので、農業をなくしてはいけないと思っています。そのためには、どうしたらよいかということを市長の立場になっても考えています。今回コロナ禍で皆様も御苦労いただいたのですが、ちょうど国から地方創生臨時交付金というものが交付されて、農業のスマート化を応援する仕組みを考えました。農業を魅力化していくための環境を作っていくことが必要であると思っています。
　前回、経済センターで開催したときにもお話を伺ったのですが、様々な農業の魅力を感じて農業に従事されている方から、やはり農業でお金が稼げないといけない、農業の魅力は他にもあるというお話をいただいたのが印象的でした。農業が人として、日本の国民として生きていく中で大切な産業だということを広く知ってもらうため、平塚で農業に従事することの魅力と従事できる環境づくりをしていくことが、我々の仕事であると思っています。本当に御苦労いただいていますが、皆様には農業の魅力発信を続けていただければありがたいと思います。

【司　会】
　ありがとうございました。持続可能な農業をテーマに話してきまして、女性が新規就農をするに当たって、注意すべきことや大変なこと等ありましたら、何かメッセージをいただけますか。

【参加者】
　農業にとってブランド化は大事だと思っていて、私は違う業種から入ってきたので、自分が生産したものに値段がつけられないことに驚きました。農業という仕事は本当に大変で、これだけの労力、時間、情熱などが入っているにもかかわらず、それが収益として反映されていないことに衝撃を受けました。
　私は、直売所のほか、スーパー数店舗やレストランに卸させていただき、宅配という形もとっています。スーパーに卸したとき、シールが貼っていないだけで、バックヤードに下げられて廃棄の場所に置かれてしまう現状を見ました。１年かけて農家が作ったもので、１年分の労力がここに集まっています。それを理解してもらわないと、卸している意味がありません。消費者と生産者の位置が離れすぎていますが、それをつなぐものは、食育、教育というところだと思います。
　今日お集まりの方の生産物は、本当に皆さんが技術を日々研究されてきたものだと思います。農家は作るのは得意ですが、発信することが不得意な方が多いのではないかと感じています。私は農家になってから、トマトのおいしいさや、農家が味

にこだわりを持って作っていることを聞いていますが、消費者にそれが伝わっていないことがすごくもどかしく思っています。

鎌倉野菜は鎌倉野菜シール、藤沢市は藤沢野菜シールというものが行政で作られていて、農家に対して無料で配布されていると聞いています。スーパーの地場コーナーには、平塚市以外の近隣の方も卸しているので、地元の野菜だとＰＲできる、平塚野菜のロゴか何かがあればいいと思います。またそれが食の教育と一緒になって、平塚の野菜を買ってもらえるような形を作っていただけるとすごくありがたいと思っています。

持続可能という点で考えると、私が作っている「くりまさり」は市街化地域の農地で作っていますが、市街地の農地は、消費者と生産者をつなぐ場であり、子どもたちが作物の生産過程を見る場でもあります。また、震災があった時にライフラインが全て遮断されたときの食料の確保という点でも、今後も残ってほしいと思っています。

また、相続で無くなってしまう土地がすごく多いです。平塚だけで作ってきた作物を何とか残していきたいという気持ちでやっていますが、市街化農地の大切さということも行政で考えていただけると嬉しいと思っています。

農業大学の学生で新たに農業をやりたいという女性がよく来ますが、すごく簡単にできると思われています。そんなに簡単にできると思って就農されても困るので、皆さんが思っている以上に覚悟がいるという話をしています。確かに、後に続いてくださる人は大事だと思いますが、誰彼構わず補助金を出すのもどうなのかと思っています。

【参加者】

うちから出る堆肥を無料で提供するので、広めてくださいとお願いしていますが、取りに来る方を見ると皆さん高齢で、１０年後はどうなるのだろうと思います。体調を崩されて、農作業ができずに草刈するだけになっている農地も出てきています。

１０年先には更に増えるのではないかと思います。お米の生産者も、年齢の高い方ばかりで若い方がいません。

母が食堂もやっているのでお米を作っていますが、お米は儲かりません。田植えや収穫のときに使う機器は２週間程度しか使いませんが、毎年メンテナンスでお金かかかります。このように耕作を放棄せざるを得ない事情があることに着目していただきたいと思います。

【司　会】

ありがとうございます。そろそろお開きの時間になりますので、平塚での農業の魅力、強みは何かという質問をさせていただきます。

【参加者】

私は、小学校に上がる前から４０年近く平塚に住んでいます。山あり、海あり、

川あり、自然ありで、都会との距離感もちょうどよく、かつ物価も安いと思います。そういう街で農業がとても盛んなので、都会と田舎をつなぐような、いろいろな試みができると思っています。農業に興味がある人たちは、様々な種類の作物を作ったり、新しい栽培方法にチャレンジしたりする中で、いろいろな成功事例を積み重ねていくことが大切だと思います。

【司　会】
そういう魅力が平塚市にはあると思います。奥様も何かあればお願いします。

【参加者】
私は農業を始めて１０年目ですが、子どもが３人いて、上が９歳です。子どもが小さい時は、おんぶしながら収穫作業をしていました。私のような農業に従事する母親を支援する仕組みがあれば更に良いと思います。

【司　会】
ありがとうございました。他に御意見などある方はいらっしゃいますか。

【参加者】
スマート農業の補助金を交付されている人も多くいると思います。この補助金は田植え機でもＧＰＳが付いていないと対象外です。田植え機に付いているＧＰＳを誰が使っているのか、という声をよく聞きます。ホイールローダーが１台あるのですが、買い足したいと思っても認められません。規模を大きくするときに、２台なら２倍の作業ができるので、補助金の支給について柔軟な対応があってもよいのではないかと思いました。

【参加者】
豚舎を２年前に建てたとき、国の畜産クラスター事業補助金を活用しようとしましたが、県の方からの要求が多くて個人では対応が難しかったため、補助金の活用は諦めて全て自己資金で建設しました。
国の考え方は大型化なので、なかなか現場に合いません。大農場が主になっているので、国の支援を受けるのは難しいと思います。当時官房長官だった菅さんのところに、県の養豚業界の幹部が行って話をしてきましたが、それに代わる補助金は余計に活用が難しいものでした。国は視点が少し違います。やはり県や市が現場に近いので、寄り添ってもらいたいと思います。
県の事業でＭＢＡ研修というものがあります。このＭＢＡ研修は先進的農家を育成する会になっています。この研修を受講したのですが、途中で、売り上げが数千万円以上の人は受けられなくなりました。意欲があるのに、売り上げによって受講が制限されてしまうことは非常に残念で、これにより規模拡大に対する気持ちが失われました。

７　市長によるまとめ

ありがとうございました。担い手の確保の問題、それから持続可能な農業にするにはどうしたらいいか、それぞれに抱えている課題を率直にお話いただいて大変ありがたく思っています。担い手確保における働き方の体制や、ブランド化も含めて農業自体の魅力の発信方法を検討することが必要だと思います。

また、持続可能な農業については、技術革新やスマート化、補助金など現場に合ったものを考える必要があります。

例えば規模の集団化ということも必要だと思います。皆様が働く中での課題は、御意見としていただきましたので、それについても考えていきたいと思います。御存知のように平塚には湘南ライスセンターと片岡のライスセンターがありますが、この３月に、中央にライスセンターを作ることになりました。平塚の中央に受委託組織ができますので、高齢化や農家の負担に対する支援に対応していきたいと思っています。また、先ほどお話のありましたブランド化について、食の教育が必要ではないかという御意見は確かにそのとおりだと思います。

今年の９月から、長年の懸案だった中学校給食が始まることになりました。今まで米飯が月３回ぐらいでしたが、それを週４回ぐらいにできるようになります。地元のおいしいお米や野菜をたくさん食べてもらい、給食の食材についても、しっかりと地元のものを使う仕組みを考えるように指示しています。中学校１５校と北部・東部の共同調理場で作っていた小学校２１校の調理場を一体にし、中学校と小学校それぞれメニューで、温かく、おいしい完全給食を届けます。

給食センターには炊飯機能がつきますので、災害発生時には、市民の皆様の食の拠点になります。災害対応にもしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

また、昨年１１月に、姉妹都市提携をしたリトアニア共和国のカウナス市を訪問してきました。リトアニアは農業国で豚肉が中心なので、産業交流もしっかりとしていきたいと思います。

皆様には平塚の農業に現場で取り組んでいただいている中で、この先の平塚の農業に向けて貴重な御意見をいただきました。平塚の農業とその魅力を次の世代へつなげていくために、しっかりと考えさせていただきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。